資料１

【活用団体】町内会活動活性化事業アンケート集計結果

回答期間：令和８年６月１日～２２日

回答町内会：２９ 町内会

回答率：１００％

恵庭市町内会連合会

【活用団体】町内会活動活性化事業　アンケート 集計・分析結果

集計対象数：29/60町内会

【デジタル化促進により補助金を活用した町内会】 〇運営の効率化と担い手負担の軽減

問1：本事業（デジタル化・備品整備等）により、役員の事務作業や連絡の「時間・労力」は軽減されましたか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
大幅に軽減された	5	26.3%
多少軽減された	12	63.2%
変わらない	2	10.5%
むしろ負担が増えた	0	0.0%
合計	**19**	**100.0%**

【記述】具体的内容（事務・連絡の効率化）

・LINE導入による連絡体制の構築、照会・確認作業の軽減が図られた。
・データ一元化により引継ぎが容易になった。
・会員の約8割が電子回覧を活用することで情報伝達の迅速化が図れた。
・デジタル会員を募り、ホームページ上で回覧内容を表示させ閲覧させることで情報伝達の迅速化が図れた。

問2：会議の回数や時間の短縮、またはオンライン化など、運営方法に効率的な変化はありましたか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
明確に効率化した	5	26.3%
わずかに効率化した	8	42.1%
以前と変わらない	6	31.6%
合計	**19**	**100.0%**

【記述】具体的内容（会議の効率化）

・ LINEでの事前協議や資料共有による会議時間の短縮が図られた。
一方で、従来通り対面を重視する町内会や、ネット環境がなくPCを活用しきれないケースもある。

問3：運営の負担が減ったことで、「これなら次期の役員を依頼しやすい」と感じますか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
非常に強く感じる	2	10.5%
ある程度感じる	10	52.6%
あまり感じない	7	36.8%
合計	**19**	**100.0%**

【記述】感じる・感じない理由（次期役員の依頼）

・デジタル環境の整備及びを役員のデジタル教育を進めることで、次期役員の担い手を発掘したい。
・デジタル化への期待や引継ぎの容易化により、依頼の心理的ハードルが低下しつつある。
ただし、「引継ぎと役員就任は別の問題」という慎重な意見も根強い。

【町内会会員の加入促進を図るため補助金を活用した町内会】 〇町内会の加入促進

問４：ホームページの導入により、周知に関わる役員の事務負担は軽減されましたか？

選択肢	回答数 (町内会数)	構成比 (%)
１．大幅に軽減	3	42.9%
２．やや軽減	3	42.9%
３．変化なし	1	14.3%
４．負担増	0	0.0%
合計	**7**	**100.0%**

【記述】具体的な効果（HP・チラシの効果）

・ホームページの開設や、「えにわ知恵ネット」の活用により、町内会活動の見える化が図られ、事務負担の軽減が図られた。一方で、高齢者世帯などデジタルツールに慣れていない会員に対して、紙媒体（回覧など）のフォローが必要であることが課題である。

問5. 非会員向けチラシ配布後、外部（非会員・転入者等）からの反応はありましたか？ (数値項目集計)

集計指標	合計値	町内会あたり平均
新規加入の申し込みがあった (合計件数)	59	9.8
活動内容に関する問い合わせがあった (合計件数)	13	6.5
ホームページへのアクセス数が増加した (月間PV)	0	-
特に反応は見られなかった (該当町内会数)	0	-

【記述】具体的な内容（チラシ等配布後の反応）

・チラシやパンフレット等の配布、ホームページの周知により、外部からの反応が見られた。

・リーフレットの効果ではないが、アパート（単身者）の増加により新規会員が増えた。

問6. 非会員向けチラシの配布やホームページ作成により、勧誘活動に変化はありましたか？

選択肢	回答数 (町内会数)	構成比 (%)
口頭だけでなくチラシがあることで、説明がしやすくなった	5	62.5%
「まずはHPを見てください」と言えるようになり、心理的ハードルが下がった	2	25.0%
特に対面での勧誘機会に変化はなかった	1	12.5%
合計	**8**	**100.0%**

【記述】加入活動をされているか？また、どのような方を勧誘されているのか？（勧誘の変化）

・口頭だけでなくQRコードやサイト誘導の併用により、説明が効率的かつ心理的に楽になった。

・チラシを配布し対面により勧誘を行った。また、店舗にリーフレットを置いてもらい勧誘活動を行っている。

【加入率の向上ため、補助金を活用し新事業を実施した町内会】

問7：新事業を来年度以降も継続するための「運営体制（担い手）」は整いつつありますか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
役割分担が明確になり、無理なく継続できる体制になった	1	7.7%
特定の人の負担は大きいが、協力者は増えており継続は可能	8	61.5%
現在の役員のみで担っており、次年度以降の継続は不安がある	3	23.1%
体制が整わず、継続は困難である	1	7.7%
合計	**13**	**100.0%**

【記述】運営体制の課題（担い手・サポーター）

・学生ボランティアや町内会独自のサポーター制度制度の実施により町内会の行事手伝者が増加した。
・特定の役員への負担はあるが、新事業が継続でき文化部で盛り上がりを見せている。
また、役員の若返りもしている。

問8：補助金が終了した後も、町内会の予算で新事業を継続する見通しはありますか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
予算の工夫や低コスト化により、自立して継続できる	7	53.8%
規模を縮小すれば、町内会予算の範囲内で継続できる	2	15.4%
市からの補助金がなければ継続は難しい	4	30.8%
合計	**13**	**100.0%**

【記述】事業継続の課題

・新事業を継続したいが、市からの補助がないとコスト面での心配がある。
・継続した市からの補助金がないと、事業を縮小せざる得ない。
・新事業を行うが加入率が向上しない。また、役員の担い手不足が課題であり協力者を探すことが大変である。
・諸物価高騰によりイベントに関わる経費は年々増え続けており、活動を縮小又は減らすと会の魅力が無くなり退会者増に繋がりかねない。会では常にイベントの内容(活動)を変化させ、会員が参加したい工夫を凝らしている。継続的な支援を実施して頂きたい。

問9：新事業は住民に受け入れられ、「地域の恒例行事・活動」として定着していく手応えを感じますか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
住民からの期待が大きく、定着していく確信がある	3	25.0%
認知度は上がっており、継続することで定着すると思う	8	66.7%
住民の関心が低く、定着させるには工夫が必要である	1	8.3%
合計	**12**	**100.0%**

【記述】事業継続の課題

・新事業の評判は良いが、継続するためにはコストが必要となり課題である。
・ホームページやデジタルツールを活用した周知により、新しいイベント等に多くの住民が参加するようになり、地域の認知度は確実に高まってきている。特に、若い世代や転入者がホームページをきっかけに参加してくれるなど、これまでにない広がりが生まれている。一方で、まだ参加が定着していない層もあり、継続的に情報発信を続けることで、地域の恒例行事として根付いていく手応えを感じている。
・盆踊りから拡大し、夏祭りとしたことにより、子供と保護者が増えた。

問10：今回の新事業をきっかけに、住民から「面白い」「またやってほしい」といった参加者からの具体的な反応はありましたか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
多くの好意的な反応があった	6	50.0%
わずかにあった	5	41.7%
特になかった	1	8.3%
合計	**12**	**100.0%**

【記述】新事業の改善や批判的な反応など

- 未参加の若年層の参加が増え、今後の継続を望む声も聞かれた。
- 合同による開催により参加者から好意的な意見を頂いた
- 新たな会員や未加入者が参加してくれた。
- 多くの親子が参加され、イベント行事が好評であった声を頂いた。

問11：新事業は、町内会活動の「マンネリ化」を解消し魅力向上のきっかけになりましたか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
非常に良いきっかけになった	8	66.7%
多少なりとも変化があった	4	33.3%
以前と変わらない	0	0.0%
合計	**12**	**100.0%**

【記述】町内会加入の魅力はどのようなことを考えているか

- 若い世代や転入者が情報をHPを見て参加してくれるなど、マンネリ化の解消につながる変化を感じている。ただし、まだ恒例行事として定着する段階には至っておらず、継続的な情報発信や運営体制の強化が必要である。
- 地域と行政を含めて住みやすい環境を作ることが町内会加入の魅力と考える。
- 新事業の開催により、参加者（会員・非会員問わず）からの口コミから参加者を増やし、町内会の魅力を知ってもらうことが必要である。
- 子どもと親の参加者が増加することで、町内会の理解が向上し、新事業の開催により多くの参加者が参加することで町内会の魅力が向上するものと考える。

【住民同士の「新しいつながり」（共通）】

問12：加入率が低下する中で、事業を通じて「未加入者」や「若い世代」との新たな接点は生まれましたか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
多くの接点が生まれた	8	27.6%
わずかに接点が生まれた	17	58.6%
接点は生まれなかった	4	13.8%
合計	**29**	**100.0%**

【記述】接点が生まれた場合

- 夏祭り開催により役員との接点が生まれ顔見知りが増えることにより、未加入・若年者の参加者が増えた。
- 若い世代の大半は電子回覧にしており、加入促進しやすくなった。
- 対面勧誘により未加入者との接点が生まれた。また、戸建の勧誘の際には、町内会の問い合わせ先を教え、町内会会員への相談に乗ることによりわずかながら接点が生まれた。
- 農村地区では隣近所が顔見知りであり、住民同士の関係性は以前からある。役員会や忘年会、会合、清掃等により顔を合せしている。

【記述】接点が生まれなかった場合

- 既存事業の維持で精一杯であり、未加入者や若年者との接点は生まれてない。
- 町内会加入のメリットを伝える手段が思いつかない。

問13：事業をきっかけに、町内会に入会していなくても、行事の際などに「スポット的に手伝ってくれる人」は増えましたか？

選択肢	回答数 (町内会数)	構成比 (%)
明確に増えた	11	37.9%
1～2名程度増えた	7	24.1%
増えていない	11	37.9%
合計	**29**	**100.0%**

【記述】増えた要因

・町内会行事において、会員の中からスポット的な協力者が増えた。チラシ作成・配布による効果である。
・夏祭りの手伝いから新たな役員の成りてが現れた。夏祭りの手伝い者からの人脈により学生等のボランティアが増えた。
・タウンサポーターを設けたことで、役員がそれぞれの繋がりを活かし各方面へのPRの動きが出てきたことが要因と考えている。

【記述】増えなかった要因

・回覧でお手伝いを募集するも誰も協力してくれない。
・町内会に加入しないとイベント等への参加や、手伝いが出来ないと、抵抗をもたれる非会員がいる。

問14：事業を通じて、住民同士の「顔が見える関係（挨拶や安否確認）」に前向きな変化はありましたか？

選択肢	回答数 (町内会数)	構成比 (%)
非常に良くなった	9	31.0%
以前よりは良くなった	15	51.7%
変化はない	5	17.2%
合計	**29**	**100.0%**

【記述】具体的な変化について

・ふれあいサロンの講師を町内会会員が行うことで、住民同士の関係がさらに緊密になったと感じる。
・役員の顔見知りによる広がりと声掛け、こまめな情報発信により変化があった。
・隣接町内会との連携行事により、多くの参加者間の顔繋がりが生まれ、住民同士の接点が非常に良くなっているものと思う。
・福祉部の活動において、声掛け運動を継続実施しており、委員との信頼関係は高いと判断する。また、安否確認として年一回、回覧板で回覧し防災訓練時に無事ですタオルを玄関前に掲示し、役員・委員が巡回し状況を把握している。徐々に根付いている。
・農村地区は、地域性から住民同士の繋がりは強い

【記述】変化がない要因

・今後取り組みを強化していく。住民台帳を整備することで変化があるものと考える。
・直接的な「顔が見える関係」については、目に見える効果は今のところ出ていない。

【他町内会等との連携事業に関する対する意識調査（共通）】

問15：隣接する町内会との連携について、どのように感じていますか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
非常に重要であり、ぜひ進めたい	13	44.8%
重要性は理解しているが、今は自町内会の維持だけで精一杯である	13	44.8%
あまり必要性を感じない（単独で十分対応できている）	1	3.4%
必要性は感じるが、具体的に何をすればいいか想像がつかない	2	6.9%
合計	**29**	**100.0%**

【記述】連携した方が解決しやすいと考える地域課題

・防災研修を共同で開催した。今後子どもも含め、隣接する町内会との連携をさらに進めたい。また、同じ避難施設を利用する他の町内会と連携した取組が必要と考える。
・「子ども対象」の事業について、単独町内会では催事が困難であるため、連携による開催を検討したい。
・町内会館がないため、隣接町内会との連携を図り、新しい事業「バスツアー」を企画したいと考えている。
・類似する行事の連携を進めることで、役員の負担軽減に繋がる。有事の際、隣接町内会同士の協力が不可欠であることから、町内会同士の恒常的な関係づくりが必要と考える。
・隣接町内会と連携し「防災訓練」を合同で実施している。これからの広がりに期待したい。ただ、連携するための企画が難しい。
・各町内会長が集う全体会議はあるが、担当部門(総務)の交流の場が無いので情報交換の場を設けて頂くと、ある程度、課題解決に繋がると思う。

【総括と今後の展望（共通）】

問16：事業によって「地域コミュニティの機能（交流や相互扶助など）」は維持・向上したと思いますか？

選択肢	回答数（町内会数）	構成比（%）
非常に向上した	8	27.6%
維持できている	17	58.6%
維持できているとは言えない	4	13.8%
合計	**29**	**100.0%**

【記述】そのように思う理由

・異世代の交流が図られ相互扶助などの地域コミュニティとしての機能の向上に寄与した。備品等を活用した事業を充実させ新たな参加者を取り込み、コミュニティ向上に向けた取組を図ることが必要と考える。
・イベントの場で住民同士が挨拶を交わしたり、会話が生まれたりするなど、交流の機会は確実に広がった。これにより、地域コミュニティの基本的な機能である“顔が見える関係”は維持されていると感じる。
今後も継続的な情報発信や運営体制の強化を進めることで、より幅広い世代にコミュニティの輪が広がる可能性があると考える。
・子どもが参加するイベントは効果的であり、盛り上がりもある。親の参加も見込まれ交流の場が生まれることから現時点では維持できているものと考える。
・「通学、見守り」、多種多様な事業を通じて、会員総出で参加しているためのコミュニティは維持できているものと考える。

問17：自由記述：新たな取り組みによって「解決への第一歩」となった具体的なエピソードがあれば教えてくださ

【記述】自由記述

・備品を活用した事業により、町内会が活性化し、新たな事業参加者の増加が図られ、町内会事業への興味・関心が高められた。また、ペーパーレス化による役員の負担軽減が図られた。
・補助金の活用により、今後の町内会の目指す方向性が明確となった。組織体制の見直しの契機に繋がり、部会の改廃・新設や、新たな役員の掘り起こしを行うことができた。
・デジタル化により、PCを役員間で使い回して活用している。また、データ管理の上大変助かっており、事務効率化が図れたと思う。
・新行事の開催はこれから検討していきたい。
・ホームページを開設したいが、役員が高齢であるため難しい。未だ役員会開催の伝達は紙媒体による回覧で行っている。外部からのＩＴサポートが必要である。
・補助金は町内会活性化のため継続して頂きたい。
・四役、役員の連絡はLINEで行っており、事務伝達の効率化が進んでいる。
・デジタル化を図るこにより、ランニングコストが増加したことが課題である。
・未加入者加入促進に対する市の支援が必要と考える。
・役員の負担軽減のため、行事の開催方法を見直した。新事業を開催することにより、新たな会員や未加入者の参加が増え、また、顔見知りの方も増えた。ただ、行事を継続するには費用がかかるため市からの補助が必要である。
・社協や民生委員など地域密着型の取り組みが必要と考える。また隣接町内会との情報共有も必要である。

・グループライン活用により役員会の連絡が容易となった。デジタル化の課題としては、町内会でスマホを所有していないため、個人のスマホを使用しており、町内会専用のスマホ購入費用についても行政で支援して頂きたい。
・農村地区であるため職業柄、イベントを開催することは難しい。孫が他町内会のお祭りに参加しているので、他町内会への補助を手厚くして欲しい。また市の補助は継続して頂きたい。ネッツと環境を整えて欲しい。

【活用団体】 町内会活動活性化事業アンケート集計（記述一覧）

【対　象】 デジタル化促進により補助金を活用した町内会

【内　容】 運営の効率化と担い手負担の軽減

問1：:本事業（デジタル化・備品整備等）により、役員の事務作業や連絡の「時間・労力」は軽減されましたか？〈具体的内容〉

■補助金で備品整備を行ったことで、**LINEによる連絡体制を構築**し、照会や確認の事務作業の軽減を図った

■町内会**データの一元化**により事務軽減に繋がった。

■**デジタル化**により、回覧や連絡作業の一部が効率化され、役員の時間的負担が多少軽減された。

■役員会や行事等の資料作成

■**会員の周知文書等のデータ化**により役員の事務負担が少し軽減した

■**会員約8割が電子回覧を活用**し、その半数が翌日まで回覧を見てくれて、**情報伝達の迅速化**が図れた。

■**LINEの活用**により、役員間の軽易な伝達が可能となった。

■**HPを活用**し回覧内容を伝達している。**現在デジタル会員、紙媒体会員50：50**となっている

■町内会**データの一元化**により事務軽減に繋がった。役員間でのPC共有活用による事務共通化

■個人PCから町内会専用PC購入により、町内会**データの一元化**が図られ事務軽減に繋がった。

■**LINEの活用**により、役員間の伝達が可能となった。半分程度の事務が効率化された。

■**パソコン導入により****ホームページを作成する****googleアカウント開設・利用****により申込フォーム等の機能の活用ができるようになり**、多少ではあるが事務作業の軽減に繋がった。

■役員会等の**連絡が「電話・文章」から「メール」になり**、役員の事務負担の軽減に繋がった。

■町内会**データの一元化**により事務軽減に繋がった。また、役員間でのPC共有活用による事務共通化も図れた。

■役員間でのPC共有活用により、会議資料の作成等の時間や労力が軽減された。

■**LINEの活用**により、役員間の連絡体制を構築し、伝達が容易になった。

■**集会施設で印刷することが出き**、役員の事務負担の軽減に繋がった

■会及び各専門部役員との通信手段として、**紙からメール・SMS・LINE活用へ変更**した。**えにわ知恵ネットサイト**内で町内会紹介及び活動紹介「旭町だより」を掲載し、町内会活動の見える化を実施し、会員・非会員へ広く公開し加入促進に繋げている。**紙ベースの会議資料を削減又は極力減らして、補足資料をプロジェクターで写真・動画・ネットサイト等を利用**し会議の円滑化や、時間削減が図られている。**町内会会員によるサークル活動の促進**に、デジタル情報の利用を呼びかけ幅広い活動に繋げている。

■**ネット環境が無いため、PCを活用しきれていない**。町内会専用PCの導入でセキュリティー面は向上した。

問2：会議の回数や時間の短縮、またはオンライン化など、運営方法に効率的な変化はありましたか？〈具体的内容〉

■**LINEの活用**により、役員間の軽易な伝達が可能となり運営方法が効率化された。また会議の回数や時間の短縮も図ることができた

■導入したばかりで効果は不明

■**オンライン連絡や資料共有**が可能となり、会議の準備や調整にかかる時間が一定程度短縮された。

■**役員間のLINE**を設け連絡体制を効率化した

■PCを活用した会議により、会議時間が短縮された。

■**電子回覧活用**による「LINE登録ニックネーム」の作業で、**本名リストの作成**まで1年ほどかかったが、リスト作成後、会員への行事の出欠等の取りまとめが楽になった。

■**LINEの活用**により、役員間の軽易な伝達が可能となり運営方法が効率化された。

■Wi-Fi利活用するため、子供たちに会館を開放する計画がある

■道具としては便利だが、運営方法の改善までには至らない

■道具としては便利だが、運営方法の改善までには至らない

■基本、対面会議を重視しているため変化はない

■必要なファイル等の作成、編集、管理が容易となり、会議の前段階の作業が効率的に行えるようになったことで、会議が冗長化せず効率的に行えるようになった。

■PCを活用し**事前に資料を配布することが出来る**ため、会議時間が1時間から30分へ短縮することが出来た。

■PCを活用し**事前に資料を配布することが出来る**ため、会議時間の短縮を図ることが出来た。

■PC購入したが、使いこなせていない。

■**LINEを活用**することで、役員への伝達が効率化された。事前協議もLINEで可能となり効率化が図られた

■役員(三役・各専門部長・各副部長)への**報連相は、極力メール・SMS・LINEで運用**しており、
従来の紙によるポスティング時間が大幅に削減している。

■ネット環境が無いため、PCを活用しきれていない。

問3:運営の負担が減ったことで、「これなら次期の役員を依頼しやすい」と感じますか？
〈理由〉

■新たな町内会事業等を推進する**意欲を持った役員候補**の参加を求めており、新たな事業の取組により大いに期待している。

■町内会データの一元化により、**次期役員への引継ぎがしやすくなった**。

■これまで紙で行っていた**回覧の作成・配布がオンラインで共有**できるようになり、連絡調整の手間が大きく減った。また、**会議資料の印刷や配布作業も不要**になり、事務負担は以前より確実に軽くなったと感じている。そのため、次期役員の依頼もしやすくなりつつあります。

■町内会データの一元化により、次期役員への引継ぎがしやすくなった。

■町内会PCにニックネームリスト等のデーター元化が完成しており、誰でも電子回覧を活用できるよう対応しているため。

■**LINEの活用**により依頼しやすくなると感じる

■デジタル教育を進め、デジタル環境を整え、次期役員の担い手を発掘する。

■町内会のデーター元化により引継ぎは楽になるが、**次期役員への依頼は別の問題**がある

■町内会のデーター元化により引継ぎは楽になるが、**次期役員への依頼は別の問題**がある

■町内会のデーター元化により引継ぎは楽になるが、**次期役員への依頼は別の問題**がある

■デジタル化が進んだことで、データ管理や編集の効率化が図られ、これからの世代にも運営に関わっていきやすい体制づくりに**繋がっている**と感じている。

■PC導入により引継ぎしやすい体制が構築された。会議時間の時間短縮の効果により役員の負担が軽減され、他役員への依頼がしやすくなった。

■PCの共有化と他役員への貸出により、**特定の役員への負担が軽減**され、他の役員に依頼しやすくなった。

■町内会のデーター元化により引継ぎは楽になるが、**次期役員への依頼は別の問題**がある

■PC環境を整備しても、他役員の依頼やすさには**繋がらない。**

■町内会のデーター元化し共有化することにより引継ぎが楽になる。

■運営の負担は、徐々にデジタル化することにより効率化が図られているが、軌道に載るのは時間を要する。役員の選出にあたっては、各専門部の活動に積極的に参加される会員との**コミュニケーションを図り見極めることが重要**であり、会として各専門部のデジタル環境は整備しつつも、企画力・運営能力の見極めが難しい。

■個人のPCを使用しないため、個人情報の管理にはメリットが高いと思うが、**次期役員への依頼は別の問題**がある

【対　象】 町内会会員の加入促進を図るため補助金を活用した町内会
【内　容】 町内会の加入促進

問4：ホームページの導入により、周知に関わる役員の事務負担は軽減されましたか？
〈具体的効果〉

■ホームページを活用することで、イベント案内や回覧内容をオンラインで周知できるようになり、印刷や配布の手間が減った分、**役員の事務負担は軽減した**が、町内会だけで安定的に対応するには限界がある。

■HPを6月中に開設するので効果はこれからである

■休止状態

■ホームページを開設したばかりで、効果はこれからである。特に**高齢者世帯などデジタルツールに慣れていない会員に対しては引き続き紙媒体（回覧など）のフォローが必要**と感じている。

■会員・非会員向けに公開することができた。配布資料が減りコストカットにつながった

■未加入者への**加入訪問の際、HPを見てと周知活動が行いやすくなった。**

■**えにわ知恵ネットのサイト作成**により、会員・非会員への周知は効率化された。新、非会員へのアプローチ(担当区長)として、**サイトへ誘導するQRコードを張り付けた案内文を作成・印刷し、配付時に加入促進を図れる体制づくり**を行った。サイト内「旭町町内会のご案内」の作成は、ゼロからの作成であり時間を要したが、役員の中で新たな**データ加工技術や専門的知識のある逸材が発掘でき**、デジタル化の大きな転換点となった。

問5：非会員向けチラシ配布後、外部（非会員・転入者等）からの反応はありましたか？
〈具体的内容〉

■非会員向け**チラシの配布**と町内会DXによる**ホームページでの周知**により、外部からの反応が見られた。

■リーフレットの効果ではないが、アパート（単身者）増加により新規会員が増えた

■新規加入**パンフレット配布**による勧誘により未加入者が増えた

■新規加入**パンフレット**（川沿通信）を新たに作成し勧誘活動を行った

■新規加入**パンフレットによる勧誘**により新規加入者からの申込があった

■今年より広報(会員・非会員)に「えにわ知恵ネット」掲載連絡文とQRコード付案内文を差込周知した。高齢者よりサイト内「町内会のご案内」を書面で欲しいとの要望が3件あり、印刷後配布した。

問6：非会員向けチラシの配布やホームページ作成により、勧誘活動に変化はありましたか？
〈具体的内容〉

■ホームページの整備により、**勧誘活動に前向きな変化**が生まれた。
また、チラシがあることで活動内容を視覚的に伝えやすくなり、**説明のしやすさも向上**した。
対面での勧誘機会そのものが大きく増えたわけではなが、現状では“**心理的ハードルが下がった**”という印象です。

■HP開設による未加入者の加入促進や町内会活動の理解促進の効果が期待される

■**店舗にリーフレットを置いてもらった**

■**チラシを配布**し対面により勧誘をした。

■転入者には市町連作成のパンフレットを配布し、併せて区長等からの声掛けを行っている。

■対面勧誘で2名加入した。**共稼ぎが多いので会うことが難しい**

■勧誘活動は従来より実施していたが、HPやチラシ配布の効果により**説明しやすくなった**

■勧誘活動のチラシは非会員・会員に関わらず**全戸へ配布する広報に差し込み**を行っている。新規入居の勧誘活動は区長が個別に訪問し行っている。
昨年まで口頭による勧誘活動から、今年より**「えにわ知恵ネット」からサイト内「旭町町内会のご案内」掲載連絡文とQRコード付案内文を配布(チラシ)し、区長の説明は「サイト内をご確認下さい」と言うだけで劇的に負担軽減**となった。

【対　象】 加入率向上のため、補助金を活用し新事業を実施した町内会
【内　容】 新事業の評判と継続の可能性

問7：新事業を来年度以降も継続するための「運営体制（担い手）」は整いつつありますか？
〈課題〉

■ホームページやデジタルツールの導入により、**情報発信や周知作業が効率化**され、**協力してくれる住民も少しずつ増えてきた。**

■特定の役員の負担は変わらないが、**サポーター制度の実施**により、会員による町内会の行事手伝者が増加した。

■担い手の掘り起こしを行っている

■新事業を実施し、役員の負担軽減に務めたが、町内会の**経費が増加**することで、次年度以降の事業継続に不安が残る。

■隣近所の声掛けが進んでほしいと考えている
■未だ担い手不足であり、**特定の役員への負担が大きい**ことが課題である

■特定の役員への負担はあるが、新事業が継続でき**文化部で盛り上が**りを見せている。また役員の若返りもしている。

■特定の役員への負担はあるが、今後、**協力者が増えるかが課題**と捉えている。
■各委員は区長が選出するが、アプローチ時口頭による説明を極力減らしサイト内へ誘導又は書面による理解を求められやすい環境づくりを行っている。
部長・副部長は選考委員会にて選出するが委員同様、アプローチ時口頭による説明を極力減らしサイト内へ誘導又は書面による理解を求めることと、過去の活動記録を会が保管しておりデータの活用を促し負担軽減を図っている

問8：補助金が終了した後も、町内会の予算で新事業を継続する見通しはありますか？
〈課題〉

■ホームページやデジタルツールの導入により、情報発信や周知作業は確実に効率化されたが、継続的な運用には**保守費用や更新費用が不可欠**です。町内会の通常予算では、これらの**維持管理費を安定的に確保することが難しく、補助金が終了した場合には、現在の水準で事業を継続することは困難**です。地域の情報発信力を維持し、住民参加を促すためにも、今後も一定の支援が必要だと感じています。

■新事業を行うが、加入率が向上しない。また、役員の担い手不足が課題であり、協力者を探すことが大変である。

■**既存事業を見直しすれば継続することが出来る**

■新事業を継続したいが、市からの補助がないとコスト面での心配がある

■継続した市からの補助金がないと、**事業を縮小せざる得ない**

■事業拡大後の**コスト面は課題**である。学校関係者や各町内会と連携し拡大したいと考えている。

■諸物価高騰によりイベントに関わる経費は年々増え続けており、**活動を縮小又は減らすと会の魅力が無くなり退会者増に繋がりかねない**。会では常にイベントの内容(活動)を変化させ、会員が参加したい工夫を凝らしている。継続的な支援を実施して頂きたい。

問9：新事業は住民に受け入れられ、「地域の恒例行事・活動」として定着していく手応えを感じますか？
〈課題〉

■**ホームページやデジタルツールを活用した周知により、新しいイベント等に多くの住民が参加するようになり**、地域の認知度は確実に高まってきている。特に、**若い世代や転入者がホームページをきっかけに参加してくれる**など、**これまでにない広がりが生まれています。**一方で、まだ参加が定着していない層もあり、継続的に情報発信を続けることで、地域の恒例行事として根付いていく手応えを感じています。

■新規事業の継続

■新事業の評判は良いが、継続するためにはコストが必要となり、課題である

■**盆踊りから拡大し、夏祭りとしたことにより、子供と保護者が増えた**

■住民からの期待が高まっているため、事業規模の拡大を図りたいと考えている

■会の恒例行事への参加者は、絶対的に少ないと感じている。各専門部では毎年行う恒例行事の中身を変化(工夫)させ、減少を食い止めているのが現状である。万人が好む行事は無いが各年齢層が好む行事はあり、今後各専門部の単体行事を他専門部と合同開催し幅広く参加者を増やす工夫を行っている

問10：今回の新事業をきっかけに、住民から「面白い」「またやってほしい」といった参加者からの具体的な反応はありましたか？
〈具体的内容〉

■ホームページやデジタルツールでの周知により、多くの行事の取り組みに対して、**住民から『面白い』『また参加したい』といった声**が寄せられている。特に、若い世代や転入者がホームページを見て参加してくれて、これまでにない反応が見られた。ただし、まだ広く浸透しているとは言えず、継続的な情報発信を通じて、さらに参加者を増やしていく必要があると感じています。

■未参加の若年層の参加が増え、今後の**継続を望む声**も聞かれた

■合同による開催により参加者から**好意的な意見**を頂いた

■**新たな会員や未加入者が参加**してくれた。

■多くの親子が参加され、イベント行事が**好評であった声**を頂いた

■今後、貴重な会員の意見として集約し、会員の求める事業や事業の中身を変化させる材料として取り扱う事とするため、**アンケート調査を実施する。**

問11：新事業は、町内会活動の「マンネリ化」を解消し魅力向上のきっかけになりましたか？
〈魅力〉

■ホームページやデジタルツールでの周知が可能になったことで、新しい取り組みを住民に届けやすくなり、これまでにない参加層が増えるなど、町内会活動に新しい動きが生まれた。特に、若い世代や転入者が情報を見て参加してくれるなど、マンネリ化の解消につながる変化を感じている。ただし、まだ恒例行事として定着する段階には至っておらず、継続的な情報発信や運営体制の強化が必要です。

■有事の際の顔見知りをつくりと考えます。

■新事業を行ったことにより、会員からの**町内会に対する期待度が上がった。**

■地域と行政を含めて住みやすい環境を作ることが町内会加入の魅力と考える

■新事業の開催により、参加者（会員・非会員問わず）からの口コミから参加者を増やし、町内会の魅力を知ってもらうことが必要である。

■地域住民との交流が促進されることにより、町内会の魅力向上に繋がるきっかけとなるものと考える。

■子どもと親の参加者が増加することで、町内会の理解が向上し、新事業の開催により多くの参加者が参加することで町内会の魅力が向上すものと考えます。

■パークゴルフからモルックへと、現在はやりのイベントを開催することで、幅広い年齢層、特に子どもが参加すればその関係性から参加者の増え、参加者同士のつながりが出来き、町内会の理解促進と魅力向上に繋がるものと考えます。

■「ひとりがみんなのために・みんながひとりのために、災害に強い街づくりを」自助・互助・共助・公助を理解し、互助(会)・共助(会)への積極的参加による近隣住民とのコミュニケーション強化

【対　象】 共通

【内　容】 住民同士の「新しいつながり」

問12：加入率が低下する中で、事業を通じて「未加入者」や「若い世代」との新たな接点は生まれましたか？
〈具体的進展〉

■新たな取り組みにより若年層を含めた新たな接点が生まれた

■夏祭り開催により、役員との接点が生まれ顔見知りが増えることにより、未加入・若年者の参加者が増えた

■DXによる周知の効果で、未加入者や若い世代がイベントに参加するようになり、地域活動への関心が高まる動きも見られている。一方で情報発信の基盤は整いましたが、未加入者や高齢の世代に十分に届くまでには至っておらず、現時点では明確な接点が得られていない場面がある。

■住民同士のつながりをデジタル化でどのように結びつけていくか課題である

■既存事業の維持で精一杯であり、未加入者や若年者との接点は生まれてない。

■若い世代の大半は、電子回覧にしており、加入促進しやすくなった。

■町内会加入者が増えた。

■町内会加入のメリットを伝える手段が思いつかない。

■日常での声掛けの機会が増えたことにより、未加入者・若年者の参加が増えた。

■対面勧誘により未加入者との接点が生まれた。また、戸建の勧誘の際には、町内会の問い合わせ先を教え、町内会会員への相談に乗ることによりわずかながら接点が生まれた。

■現在の課題として認識しているが、どうしたらいいかかわからない。

■夏祭りや餅つき等の行事を通じて、未加入者や、若い世代の参加者が増え接点が生まれた。

■戸建てが増えたことで、若年世帯との接点が生まれた。

■隣接町内会との連携した行事開催により、多くの参加者の顔のつながりが増え、新たな接点が生まれているものと思う

■「タウンサポーター制度」を設け、役員以外の会員や、会員以外の方（大学生など）も町内会活動を支援できるようにし、本事業で導入したパソコンを活用し作成したサポーター申込フォームやチラシで募集を開始した。5月に文教大学にPRをしたところ、5/28現在で4名の大学生からサポーターの登録申し込みがあった。

■新事業開催により新規加入者が微増（4名）した。新規会員の行事への参加により顔見知りが増えつつある。

■夏祭りを拡大したことで、未加入・若年者の参加者が増え、役員との接点が生まれた。

■イベントを開催することにより、参加者の口コミが増え加入促進に繋がった。

■対面による勧誘活動により、未加入者との接点が生まれた。

■町内会独自で活性化事業を実施した。子どもと親をターゲットとした事業開催により会員・非会員同士の繋がりが生まれた。今年は若年層の交流を目的として、親子をターゲットとした新事業「クリスマス会」を開催する。

■事業の開催により、若い世代との若干の関わりが出来た。

■事業開催により、未加入者を含めた会員が増加した。

■若い世代とのコミュニケーションは徐々に増加している

■農村地区では、隣近所が顔見知りであり、住民同士の関係性は以前からある。役員会や忘年会、会合、清掃等により顔を合せしている。

問13：事業をきっかけに、町内会に入会していなくても、行事の際などに「スポット的に手伝ってくれる人（サポーター）」は増えましたか？
＜要因＞

■今まで不参加であった人の参加が増え、サポーターも増加した

■**文教大学ボランティアに依頼**している。

■若い世代や転入者がイベント情報を目にする機会が増え、行事に参加し、その場でスポット的に手伝ってくれるケースが見られる。特に、**子育て世帯や働き世代が“できる範囲で協力したい”と声をかけてくれるなど、これまでにない関わり方が生まれている。DXによる周知力向上の成果**だと考える。一方で、高齢者層にはデジタル情報が十分に届かないこともあり、サポーターの増加にはまだ繋がっていない。また、未加入者や若い世代には一定の反応があるものの、広い世代に浸透するには継続的な発信と運用の安定化が必要と考える。

■町内会行事において、**会員の中からスポット的な協力者が増えた（10名程）。チラシ作成・配布による効果**である。

■転入者のほとんどが町内会に加入してくれるが、スポット的な手伝いは増えていない。

■**回覧でお手伝いを募集するも誰も協力してくれない**

■**高校ボランティア5名参加**

■手伝ってくれる人に、「無理」や「負担」をかけないように、お願いしている。

■**夏祭りの手伝いから、新たな役員の成りてが現れた**。また、**夏祭りの手伝い者からの人脈により学生等のボランティアが増えた。**

■**すべて役員で対応**している。役員間での声掛けにより手伝ってくれる人を探している。

■役員の顔見知りによる広がりと声掛けにより明確に増えた

■イ**ベントに参加してくれた人が、自ら片付けを手伝ってくれた**

■基本、役員・区長で対応しているが、**学生ボランティアや旧役員への声掛けによりサポータが増えた。**

■「タウンサポーター」を設けたことで、役員がそれぞれの繋がりを活かし各方面へのPRの動きが出てきたことが要因と考えている。

■**町内会に加入しないとイベント等への参加や、手伝いが出来ないと、抵抗をもたれる非会員がいる。**

■役員の顔見知りの効果により手伝ってくれる人が若干増えた。また、会員間の繋がりも増えた。

■**回覧での周知のため参加者が限定的**となる。今後、**役員の口コミ等によりサポーターの参加を広げていきたい。**

■**会員にお手伝いをお願いしているが、なかなか協力して頂けない。**

■役員メインで行っているため、手伝ってくれる人は増えていない。

■学生等ボランティアに手伝をお願いしている。

■**参加者や、役員の顔繋がりや口コミにより、スポット的な手伝いの輪が広がった。**

■役**員の顔見知りが増えたことにより、若干手伝ってくれる人が増えた。**また、会員間の繋がりも増えつつある。

■役員・委員となると責任があり、**スポット的なお手伝いには責任が無いので、サポーターとして気楽に参加できる。**また、以前役員・委員等の経験者へ声掛けにより協力してくれる。

■農村地区では、隣近所が顔見知りであり、住民同士の関係性は以前からある。役員会や忘年会、会合、清掃等により顔を合せしている。

問14：事業を通じて、住民同士の「顔が見える関係（挨拶や安否確認）」に前向きな変化はありましたか？
＜具体的内容＞

■ふれあいサロンの講師を町内会会員が行うことで、住民同士の関係がさらに緊密になったと感じる

■**夏祭り開催による影響**で、**未加入者・若年者の参加者が増え、顔見知りが増えた。**

■イベントの場で自然と挨拶や会話が生まれるなど、住民同士の関係性に前向きな変化が見られた。特に、子育て世帯同士が顔見知りになるなど、これまで接点の少なかった層のつながりが広がっている。一方で、ホームページの閲覧数のカウンターを当初設定していなかったため、現在データの取得中です。**今後も継続的に情報発信を行うことで、挨拶や安否確認につながる“顔が見える関係”が形成される可能性は高い**と感じている。

■会員サポータが増えたことにより、行事を通じて顔見知りが増えた。

■公式ラインにより会員への伝達等がスムーズになった。**転入者の町内会勧誘の際には、加入のメリットを伝えやすくなり**、独誌のパンフレットを持っていき勧誘を行っていることで、住民同士の関係性に前向きな変化が生じた。

■役員の顔見知りによる広がりと声掛け、こまめな情報発信により変化があった。

■**日常での声掛けの機会が増えた**ことで、以前より良くなりつつある。

■今後取り組みを強化していく。住民台帳を整備することで変化があるものと考える。

■役員の顔見知りによる広がりと声掛けにより以前より良くなった。

■**イベントに参加した若年層が増えたことにより、顔見知りが増えた**

■**隣接町内会との連携行事**により、多くの参加者間の顔繋がりが生まれ、住民同士の接点が非常に良くなっているものと思う

■直接的な「顔が見える関係」については、目に見える効果は今のところ出ていない。

■家族台帳の更新、民生委員による毎月の確認、各種行事の工夫などにより、役員の若返りが少し進んだ影響もあり、以前よりは良くなった。

■住民同士の挨拶が増えた等の変化から非常に良くなったと思う

■参加者の顔見知りによる広がりと声掛け、口コミにより以前より良くなった。

■対面による勧誘により、顔見知りが増え、住民同士の関係性が以前より向上した。

■子どもと親をターゲットとした事業開催により、以前よりも繋がりが生まれた。

■夏祭りにより、参加者間の顔繋がりが生まれ、住民同士の接点が若干増加することにより以前より良くなっている。

■行事の参加者や、役員の顔繋がりと口コミなどの影響で、スポット的な手伝いの輪が広がった。

■**新事業の開催により、子供と高齢者の繋がりの輪が出来きた。**また、**若年層をターゲットとした事業開催**により若干であるが顔見知りが増えた。

■福祉部の活動において、声掛け運動を継続実施しており、委員との信頼関係は高いと判断する。また、安否確認として年一回、回覧板で回覧し防災訓練時に無事ですタオルを玄関前に掲示し、役員・委員が巡回し状況を把握している。
徐々に根付いている。

■農村地区は、地域性から住民同士の繋がりは強い

【対　象】 共通

【内　容】 他町内会等との連携事業に対する意識調査

問15：隣接する町内会との連携について、どのように感じていますか？
＜地域課題＞

■防災研修を共同で開催した。今後子どもも含め、隣接する町内会との連携をさらに進めたい。また同じ避難施設を利用する他の町内会と連携した取組が必要と考える。

■隣接町内会と連携し「秋に焼き芋の会」、冬に「冬フェス」を開催している。（北南中央曙）

■隣接する町内会との連携は、地域全体の活性化や防災力向上の観点から非常に重要であると感じている。自町内会だけが一人勝ちするのではなく、周囲の町内会にも声をかけ、単独では実施が難しい事業を共催したり、運営面で支援したりするなど、地域全体の底上げにつながる取り組みを進めている。
一方で、単町としてホームページやデジタルツールの運用、新事業の実施、役員負担の軽減など、まずは自町内会の基盤を安定させることが優先課題と考えており、特に、若い世代の参加は増えているものの、高齢者層にはデジタル周知が届きにくいなど、内部の課題も残っている。

■現在、駒場町3町内会で駒場交流館を起点とした連携が行われている。

■隣接町内会と連携し「ラジオ体操」や「花火大会」、「ローソク出せ」等の行事を実施している。（駒場町南・北・中央）

■「子ども対象」の事業について、単独町内会では催事が困難であるため、連携による開催を検討したい。

■隣接町内会と連携し秋に「焼き芋の会」、冬に「冬フェス」を開催している。（北南中央曙）

■防災活動で連携

■類似する行事の連携を進めることで、役員の負担軽減に繋がる。有事の際、隣接町内会同士の協力が不可欠であることから、町内会同士の恒常的な関係づくりが必要と考える。

■町内会館がないため、隣接町内会との連携を図り、新しい事業「バスツアー」を企画したいと考えている。

■隣接町内会とは情報共有は行っているが、連携して何をすればいいかわからない

■隣接町内会と連携し「ラジオ体操」を開催している。

■隣接町内会と連携し、夏祭りを合同で開催している。（文京）

■役員の担い手不足について、単位町内会だけで解決しようとするには限界がある。複数の町内会が連携することで、それぞれの得意分野を活かせると考える。隣接する町内会と連携し夏祭りを実施しているが、今後そうした取り組みをさらに進めて行きたい。

■隣接町内会と連携し「防災訓練」を合同で実施している。これからの広がりに期待したい。ただ、連携するための企画が難しい。

■隣接町内会と連携し「防災教室や宿泊学習」を実施している。

■各町内会長が集う全体会議はあるが、担当部門(総務)の交流の場が無いので情報交換の場を設けて頂くと、ある程度課題解決に繋がると思う。

■農村地区であるため、隣接町内会と連携し事業を開催することは難しい

【対　象】 共通

【内　容】 総括と今後の展望

問16：事業によって「地域コミュニティの機能（交流や相互扶助など）」は維持・向上したと思いますか？
＜理由＞

■異世代の交流が図られ相互扶助などの地域コミュニティとしての機能の向上に寄与した。備品等を活用した事業を充実させ新たな参加者を取り込み、コミュニティの向上に向けた取組を図ることが必要と考える

■多くの事業や連携事業の開催により、コミュニティは向上してるものと考える

■イベントの場で住民同士が挨拶を交わしたり、会話が生まれたりするなど、交流の機会は確実に広がった。これにより、地域コミュニティの基本的な機能である“顔が見える関係”は維持されていると感じる。今後も継続的な情報発信や運営体制の強化を進めることで、より幅広い世代にコミュニティの輪が広がる可能性があると考える。

■今後デジタル化促進によりコミュニティーをどのように展開するかが課題である

■PCを活用し、会員へのチラシの作成・配布の効果により、他会員への協力を求めている影響により、コミュニティ機能は維持出来ているものと考える。

■高齢者等でLINEが使えない方に会員に対して、従来の回覧版で対応しており、伝達方法の拡大により住民同士の交流が向上しているものと考える。

■子どもが参加するイベントは効果的であり、盛り上がりもある。親の参加も見込まれ交流の場が生まれることから現時点では維持できているものと考える。

■声掛けや、町内会独自で、ケアサポーターを立ち上げ、75歳以上の見守りを行っている

■役員の声掛けの機会が増えたことで、交流が維持できているものと考える

■夏祭りの手伝いから、顔見知りが増え、新たな役員の成り手が現れた。また、手伝いされた方からの人脈から学生等ボランティアが増えたことで、交流は維持されているものと考える

■夏祭り開催の効果もあり、多くの方が参加していることから、コミュニティー機能は維持されているものと考える

■多くの事業や連携事業の開催の効果もあり、多くの方が参加していることから、コミュニティー機能は維持されているものと考える

■いろいろな行事に、多くの高齢者の方が参加していることから、コミュニティー機能は維持されているものと考える

■**デジタル化によって直ちに交流や相互扶助が解決する、というものではないと思っている。**実際に役員の負担感等から**毎年会員が10名程度減少**しており、根本的な原因（役員の負担感、町内会に加入するメリット）といったところへのアプローチが必要と考える。

■イベント等の開催により、新たな会員の参加、未加入者の参加と新顔が増えた。

■イベントを通じ、参加者増え、その参加者からの顔見知り・口コミにより、コミュニティの輪が向上したものと考える。

■イベントを通じ、参加者増え、その参加者からの顔見知り・口コミにより、コミュニティの輪が向上したものと考える。

■「通学、見守り」、多種多様な事業を通じて、会員総出で参加しているためのコミュニティは維持できているものと考える。

■事業計画に則り各専門部が実施しており、地域コミュニティとしての役割は維持している。しかし、個々人が集うサークル活動が極めて少なく、何とか拡大に繋げたいと考えている。

■地域性から住民同士のつながりが強い

問17：自由記述：新たな取り組みによって「解決への第一歩」となった具体的なエピソードがあれば教えてください。＜自由記述＞

■備品を活用した事業により、町内会が活性化し、新たな事業参加者の増加が図られ、町内会事業への興味・関心が高められた。
ペーパーレス化による役員の負担軽減が図られた。

■今年から**新一年生に図書券を配布する事業**を開始した。また、**毎年バスツアー（エスコン観戦）を実施**している。会員から事業が「楽しい」との声がある。

■隣接する町内会にも声をかけ、単独では実施が難しい事業を共催したり、運営面で支援したりすることで、地域全体のつながりが広がりつつある。こうした動きは、住民同士の“顔が見える関係”の形成や、将来的な相互扶助の基盤づくりにつながるものであり、新たな取り組みが地域課題の解決に向けた確かな第一歩になったと感じている。

■PCを活用し、チラシ作成配布を行ったことで、会員サポータが10人増えた。現状を維持するだけで精一杯であり、未加入者への加入促進まで対応できない。

■四役、役員の連絡はLINEで行っており、事務伝達の効率化が進んでいる。

■デジタル化を図るこにより、ランニングコストが増加したことが課題である

■未加入者加入促進に対する市の支援が必要と考える

■補助金の活用により、今後の町内会の目指す方向性が明確となった。組織体制の見直しの契機に繋がり、部会の改廃・新設や、新たな役員の掘り起こしを行うことができた

■ラジオ体操の合同開催、他町内会役員との情報共有（資料提供）により、他町内会役員と顔見知りとなることで、相互の取り組みや課題等を共有することが出来た。課題としては、町内会加入のメリット・デメリットの周知を行い、町内会の透明性・理解促進が必要であるものと考える。

■デジタル化により、PCを役員間で使い回して活用している。また、データ管理の上大変助かっており、事務効率化が図れたと思う。新行事の開催はこれから検討していきたい。

■ホームページを開設したいが、役員が高齢であるため難しい。**未だ役員会開催の伝達は紙媒体による回覧**で行っている。**外部からのITサポートが必要**である

■補助金は町内会活性化のため継続して頂きたい

■多種多様な事業の開催と、隣接する町内会との合同開催により、多くの事業で参加者が増えた。

■「タウンサポーター」を導入したが、結果がついて来るのはこれからと考えているが、PRしてすぐに4名からの登録があり大きな成果と考えている。**これまでの体制（役員、区、●●部など）だけにとらわれない取り組み**を進めたり、活動を通じて「楽しかった！またやりたい！」と思ってもらえるような成果を出していくことが大切と考えており、今後さらにそうした取り組みを進めていきたい。

■役員の負担軽減のため、行事の開催方法を見直した。**新事業を開催することにより、新たな会員や未加入者の参加が増え、また顔見知りの方も増えた**。ただ、行事を継続するには費用がかかるため市からの補助が必要である。

■社協や民生委員など地域密着型の取り組みが必要と考える。また隣接町内会との情報共有も必要である

■イベントの開催を通じて、役員以外の方が手伝いしてくれた。

■町内会とコミュニティースクールとの合同防災訓練を実施する予定がある

■グループライン活用により役員会の連絡が容易となった。デジタル化の課題としては、町内会でスマホを所有していないため、個人のスマホを使用しており、**町内会専用のスマホ購入費用**についても行政で支援して頂きたい。

■テレビ会議（オンライン会議）を開催した。

■ハロウィ、たなばた、餅つきを開催した結果、幅広い年齢層の参加者が増加し、今後も事業の充実を図りたい。**役員になりたくない人が、町内会をやめてしまう**ことが課題である。また、**役員の年齢構成も課題の一つ**と認識している

■様々な活動を実施しているが、大まかに言うと形になって表れないのが実情です。

■農村地区であるため職業柄、イベントを開催することは難しい。孫が他町内会のお祭りに参加しているので、他町内会への補助を手厚くして欲しい。また市の補助は継続して頂きたい。ネッツと環境を整えて欲しい。